

バイオなどの新技術と学際的研究で循環的未来と地域貢献を

No.
14



2012.5

ローズ・ハルマン工科大学学長来学



本号の内容

- ローズ・ハルマン工科大学学長来学 2
- 菊沢喜八郎教授「第20回松下幸之助花の万博記念賞」受賞 2
- 南博道講師「2012年度日本農芸化学会奨励賞」受賞 3
- 平成23年度プロジェクト研究発表会 3
- 平成23年度卒業式・学位授与式 3
- 最終講義 4
- 新任教員の紹介 4
- 平成24年度入学式 5
- 学長表彰 5
- 日米マッププロジェクト 6
- 平成24年度入学試験状況 6

石川県公立大学法人

発行 石川県立大学広報委員会

みなさんのご意見をお待ちしています

インターネットホームページ <http://www.ishikawa-pu.ac.jp/> 電子メール kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp

〒921-8836 石川県野々市市末松 1 丁目 308 番地

電話 / 076-227-7220 FAX / 076-227-7410

ローズ・ハルマン工科大学学長来学

1月26日、ローズ・ハルマン工科大学のマット・ブラナム学長、フィル・コーンウェル副学長、スコット・クラーク教授が本学を訪問され、現在までの学生間の異文化間交流の意義や今後のさらなる発展について意見交換しました。

ローズ・ハルマン工科大学は、1874年創立で、高度な科学技術教育を提供する私立大学として知られています。キャンパスの位置するインディアナ州テレホートは人口約6万人の小さな町で、学部生は2000人、大学院生は100人という小規模校ですが、近年、メディアの評価が上がってきており、U.S News & World Reportでは、「優れた科学技術系の学部プログラムを持つ大学」の部門において13年連続で全米第一位に認められています。

本学とは、2007年度から継続的に、教育的異文化間交流において深い協力関係にあります。毎年後期に本学の2年生必修英語の履修者全員が、インターネット上の小グループでローズ・ハルマン工科大学の学生と数週間にわたりメッセージ交換を行っています。この活動を通し、日米の各学生は言葉、文化、社会や学生生活など多くの貴重な学びを経験しています。また、2009年度と2011年度には、両大学の学生が参加する共同プロジェクトと合宿が行われました（2011年度のプロジェクトと合宿については、6ページの「日米 Map Project」を参照）。



菊沢喜八郎教授「第20回松下幸之助花の万博記念賞」受賞

菊沢教授（環境科学科、本年3月末に退職）の「第20回松下幸之助花の万博記念賞」受賞を記念して、2月6日に「樹木行動学ことはじめー動かない樹木の行動を探るー」と題した公開セミナーが本学で開催されました。

講演では、従来の林学の概念を超え、世界の植物生態研究をリードし続けてきた菊沢教授が色々な体験も交えて樹木研究について語り、また、ご自身のスケッチも随所に盛り込まれて、植物への愛着がにじみ出てくる内容でした。

セミナーには野々市市民をはじめ、植物に関心のある多くの方が参集し、盛況でした。



南博道講師「2012年度日本農芸化学会奨励賞」受賞

受賞テーマ：微生物発酵法による植物アルカロイド生産とその応用

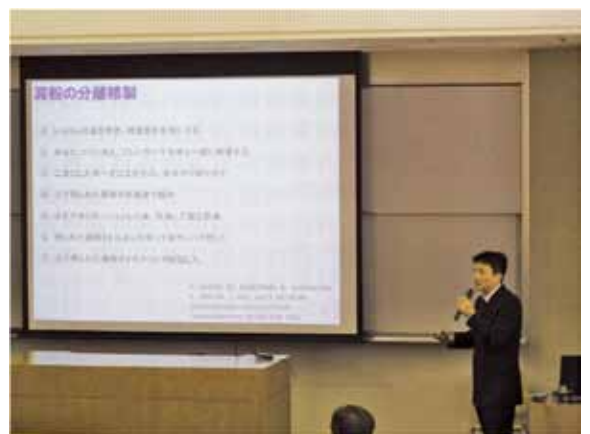
植物の産生するモルヒネ等のアルカロイドは、医薬品として広く利用されています。しかし、植物内に微量にしか含まれないものも多く、その効率的な生産方法が望まれていました。我々は、微生物酵素とアルカロイド生合成酵素を組み合わせ、微生物によってグルコースから植物アルカロイドを生産することに成功しました。この生産方法は、多様な植物二次代謝産物の発酵生産に適応できると考えられます。



平成 23 年度プロジェクト研究発表会

3月1日、平成23年度のプロジェクト研究の発表会が開催されました。

若手研究プロジェクト4題（廃竹材活用のための自然界での竹材分解菌の探索、中山間地域における森林管理の歴史の変遷に関する研究、加賀レンコンの魅力にせまる一登本からみた食品素材特性一、ヒスタミン生成型乳酸菌の抑制を目指した魚醤油「いしり」の菌叢・特性解析）をはじめ、教育改善プロジェクト3題、学科等が企画するプロジェクト5題、地域貢献プロジェクト6題、全学研究プロジェクト1題、萌芽的挑戦研究プロジェクト2題、合計21題の研究発表が発表されました。



平成 23 年度卒業式・学位授与式



3月21日（水）、4回目となる卒業式・学位授与式を体育館で挙行了しました。

卒業生134名（生産科学科38名・環境科学科49名・食品科学科47名）、大学院博士前期（修士）課程修了生29名（生産科学専攻7名・環境科学専攻7名・食品科学専攻7名・応用生命科学専攻8名）、続いて今回が初めてとなる大学院博士後期（博士）課程修了生3名（自然人間共生科学専攻2名・生物機能開発科学専攻1名）一人ひとりに松野学長から卒業証書・学位記（学士、修士並びに博士・生物資源環境学）が授与されました。また、23年度に設けられた学長賞の表彰も行われ、卒業生の中で成績優秀であった各学科学生1名（生産科学科・北村沙紀、環境科学科・志見遼香、食品科学科・山口裕子）、課外活動等で功績のあった者2名（環境科学科・坂下政直、同・市川広幸）に賞状と盾が授与されました。

最終講義

2月28日 本学大講義室で7名の退職される先生方の最終講義が行われました。



生産科学科	生物資源経済学研究室教授	辻井 博	「コム・棚田・食料安全保障」
環境科学科	土壌環境学研究室教授	米林 甲陽	「フミン物質研究 45年」
環境科学科	植物生態学研究室教授	菊沢喜八郎	「植物生態学における統一理論を目指して」
環境科学科	灌漑排水学研究室教授	村島 和男	「モグラ（暗渠排水）とともに四半世紀」
環境科学科	地域計画学研究室教授	高橋 強	「地域再生を願って」
環境科学科	水資源学研究室教授	北村 邦彦	「人生の1/2」
生物資源工学研究所	環境生物工学研究室教授	高月 紘	「パートナーシップ事業への期待」

その他の退職された教員：

生産科学科 動物管理学研究室准教授 宇佐川智也
 環境科学科 灌漑排水学研究室准教授 坂田 寧代

新任教員の紹介

―――主な研究テーマと着任にあたっての抱負―――



生産科学科 生物資源経済学研究室講師 有賀健高

農・水産資源、エネルギー資源などの市場効率性、市場統合に関する研究

「北陸地域の農林水産資源の持続可能な利用を通じた経済発展に研究成果を生かしていけたらと思っています」



生産科学科 動物管理学研究室助教 小木野瑞奈

反芻動物におけるストレス指標物質および行動の日内リズムの比較

「専門である動物生理学、動物行動学、時間生物学を用いて動物福祉を念頭においた畜産業に貢献できる研究をしたいと思っています」



環境科学科 土壌環境学研究室教授 岡崎正規

土壌中の無機イオンの動態と吸着メカニズム

「土壌は生態系の要の存在で、我々の重要な資源の一つでもあります。新たな土壌の機能を明らかにする研究を進めます」



環境科学科 植物生態学研究室准教授 北村俊平

動物と植物相互作用、特に大型の果実食動物による種子散布とその生息環境の保護

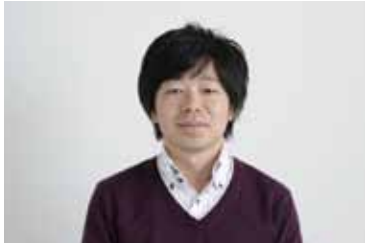
「生物と環境の関係だけではなく、生物間相互作用の視点から自然環境を見ることの重要性を伝えたい」



環境科学科 地域計画学研究室講師 山下良平

中山間地域の再生可能性評価とその方法論の確立に関する研究

「地域計画学，活性化政策，農業経済学などを専門とする人間として，石川県が発展できる仕組みを考えたいと思います」



環境科学科 水資源学研究室准教授 藤原洋一

気候変動と人間活動が流域水資源に与えるインパクトの評価と適応策の検討

「熱帯の水資源フィールド調査で熱くなり、白山連峰の水環境に癒されながら、楽しく研究・教育を行います」



環境科学科 環境利水学研究室教授 高瀬恵次

流域の水・物質循環に果たす農林地の役割－農林地の多面的機能－

「愛媛大学から転任しました。手取川流域での農地や森林の持つ水源涵養機能について研究したいと思っています」



生物資源工学研究所 環境生物工学研究室教授 三宅克英

難培養微生物の検出と解析

「専門分野は応用微生物ですので、石川の自然環境から単離した微生物を使って地域密着型の研究を展開していければと考えています」

平成24年度 入学式

4月5日、学部学生総数136名(うち3年次編入学生1名)、大学院博士前期課程11名、博士後期課程5名の入学式が行われました。



学長表彰

昨年度より本学にとって功績が認められる学生・団体に対して学長が表彰する制度が設けられ、在学生では弓道で功績のあった食品科学科4年の小林加奈子さん、環境科学科4年の安藤健太君、女子バレー部、学生援農隊「あぐり」の4件が対象となり入学式において表彰を行いました。

写真は輪島千枚田での「あぐり」の活動風景です。



日米 Map Project



日米 Map Project と称して、両大学の総勢 45 名が、オンライン上のやり取りによって、野々市市本町地区と白山市鶴来地域のまちあるきマップを英訳しました。このプロジェクトの締めくくりとして、ローズ・ハルマン工科大学の学生が石川県を訪問し、2月26日から28日にかけて、石川県立大学の学生と合宿を行いました。その一環として、プロジェクトの成果を発表する「日米 Map Project 発表会」、太鼓・加賀友禅・九谷焼絵付けのワークショップ、グループに分かれての金沢観光、英訳した場所を実際に訪れるフィールドワーク等を行いました。本プロジェクトには国際交流と地域貢献という二つの目的がありましたが、日米両国の学生は、その二つともを存分に楽しみ、また、多くの学びと達成感を得ました。

平成 24 年度入学試験状況

一般入試

区分	学科	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)
前期 日程	生産科学科	22	56	2.5	52	2.4	28	1.9
	環境科学科	22	65	3.0	60	2.7	32	1.9
	食品科学科	22	68	3.1	64	2.9	32	2.0
	計	66	189	2.9	176	2.7	92	1.9
後期 日程	生産科学科	10	62	6.2	23	2.3	15	1.5
	環境科学科	10	75	7.5	32	3.2	13	2.5
	食品科学科	10	75	7.5	27	2.7	15	1.8
	計	30	212	7.1	82	2.7	43	1.9
合計		96	401	4.2	258	2.7	135	1.9

推薦入試

区分	学科	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)
推薦 入試 A	生産科学科	6	9	1.5	9	7	1.3
	環境科学科	6	10	1.7	10	6	1.7
	食品科学科	6	8	1.3	8	6	1.3
	計	18	27	1.5	27	19	1.4
推薦 入試 B	生産科学科	2	3	1.5	3	2	1.5
	環境科学科	2	0	-	-	-	-
	食品科学科	2	0	-	-	-	-
	計	6	3	0.5	3	2	1.5
合計		24	30	1.3	30	21	1.4

大学院第1次募集

区分	専攻	志願者数 (人)	一般 (人)	社会人 (人)	留学生 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	合格者数 (人)
前期 課程	生産科学	2	2	0	0	0.3	2	2
	環境科学	1	1	0	0	0.1	1	1
	食品科学	3	3	0	0	0.4	3	3
	応用生命科学	4	4	0	0	0.5	4	3
	計	10	10	0	0	0.3	10	9
後期 課程	自然人間共生	0	-	-	-	-	-	-
	生物機能開発	0	-	-	-	-	-	-
	計	0	-	-	-	-	-	-

大学院第2次募集

区分	専攻	志願者数 (人)	一般 (人)	社会人 (人)	留学生 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)
前期 課程	生産科学	0	0	0	0	-	-
	環境科学	2	2	0	0	2	2
	食品科学	2	2	0	0	2	2
	応用生命科学	1	1	0	0	1	1
	計	5	5	0	0	5	5
後期 課程	自然人間共生	1	0	1	0	1	1
	生物機能開発	2	1	1	0	2	2
	計	3	1	2	0	3	3

大学の 今後の動き

- 5月29日 開学記念日
- 8月10日 オープンキャンパス
- 8月31日 3年次編入学試験
- 8月31日、9月1日 大学院入学試験
- 10月27、28日 第8回響緑祭
- 11月17日 推薦入試

<< 編集後記 >>

IPU News (石川県立大学広報) 第14号をお届けします。東日本大震災から一年を経過し復興に向けて様々な取り組みがなされておりますが、がれき処理を含めなかなか進まない現状にもどかしさを感じているのは全国民の共通の気持ちではないでしょうか。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。石川県立大学の学生も本学で得た知識と経験をもとに若い力が求められるあらゆる分野で力強く活躍してくれることを祈念します。

石川県立大学広報委員会